



齋藤 精一（さいとう せいいち）
ライゾマティクス・アーキテクチャー主宰

1975 年神奈川生まれ。建築デザインをコロンビア大学建築学科(MSAAD) で学び、2000 年からNY で活動を開始。その後ArnellGroup にてクリエイティブ職に携わり、2003 年の越後妻有アートトリエンナーレでアーティストに選出されたのをきっかけに帰国。フリーランスのクリエイターとして活躍後、2006 年株式会社ライゾマティクス設立、2016 年よりRhizomatiks Architecture を主宰。建築で培ったロジカルな思考を基に、アート・コマーシャルの領域で立体・インタラクティブの作品を多数作り続けている。

現在、2020 年グッドデザイン賞審査委員副委員長、2020 年ドバイ万博 日本館クリエイティブ・アドバイザー。2025 年大阪・関西万博People's Living Lab 促進会議有識者。



井出 明（いで あきら）
金沢大学国際基幹教育院 准教授

京都大学経済学部卒、同大学院法学研究科修士課程修了、同大学院情報学研究科博士後期課程指導認定退学。京都大学にて博士（情報学）を取得。九州東海大学、大阪経済法科大学、近畿大学、首都大学東京、追手門学院大学を経て、現在は、金沢大学国際基幹教育院准教授。この間、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター（GLOCOM）フェローやハーバード大学ライシャワー研究所客員研究などを歴任。現在の専門は観光学。特に、戦争や災害と言った人類の悲しみの記憶を訪ね歩く“ダークツーリズム”を専門にしている。国内外の、戦跡・震災遺構・刑務所跡などの保存と活用事例に詳しい。近年は特に、原発事故や環境破壊といった科学技術文明が人類にもたらす負のインパクトに関して研究を続けている。現代アートと観光の関係性についても多くの論考を発表しており、アーティストやアートマネージャーとの交流も盛んである。主著：「ダークツーリズム 悲しみの記憶をめぐる旅」（幻冬舎）、「ダークツーリズム 近代の再構築」（美術出版社）など。

Facebookページ <https://www.facebook.com/akira.ide.54>



村田 麻里子（むらた まりこ）

関西大学社会学部 教授

1974年、東京生まれ。関西大学社会学部教授。東京大学大学院学際情報学府博士後期課程満期退学。博士（学際情報学）。

専門はメディア論、ミュージアム研究。主たる研究は、「メディアとしてのミュージアム」あるいはミュージアムという空間の思想的・社会的意味について考えること。その他にも多様な都市空間や、観光にまつわる「空間メディア」のあり方に幅広く関心を寄せる。

主な著書として『思想としてのミュージアム—ものと空間のメディア論』（人文書院、2014年）、『ポピュラー文化ミュージアム—文化の収集・共有・消費』（共編著、ミネルヴァ書房、2013年）などがある。



二神 敦（ふたかみ あつし）

博覧会愛好家

1972年生まれ。8歳の時に地元・神戸で開催された「ポートピア'81（ポートアイランド博）」に感動したことがきっかけで全国の地方博へ足を運ぶようになり、これまでに訪れた博覧会は大小150におよぶ。

万博としては、ちょうど30年前に大阪で開かれた「国際花と緑の博覧会（EXPO'90）」が最初。リスボン万博（EXPO'98）以降は海外にも進出し、以後ハノーバ・サラゴサ・上海からミラノ・アスタナへと続くすべての国際博を制覇。なかでも2012年の韓国・麗水万博では開幕初日に一番乗りを果たした。

また開催中の万博のみならず、パリはもとより、ロンドン・シカゴ・シアトル・バンクーバ・ブリスベンといった万博跡地をライフワークとして巡っている。

一方、学生時代には博覧会でのパビリオン運営業務に従事。就職後は、淡路花博・愛知万博などの博覧会系はもちろん、2002FIFAワールドカップ・2007世界陸上大阪大会・2019ラグビーW杯などスポーツ系も含めた数々のイベントでボランティアスタッフを経験。東京オリンピック・パラリンピックではシティキャストとして大会をサポートする予定である。（現在、阪神高速道路(株) 管理本部 神戸管理保全部 交通課 課長代理）



岡田 朋之（おかだ ともゆき）

関西大学総合情報学部 教授

1965年大阪生まれ。大阪大学大学院人間科学研究科博士課程単位取得退学。専門はメディア論・文化社会学。テーマは情報メディアの変容と日常生活で、モバイルコミュニケーションの社会学的研究においては自他共に認めるパイオニア。近年は、21世紀以降の国際博覧会（万博）を中心に、インターネットやモバイルメディアが普及した現代社会におけるメディアイベントのあり方や意義の変化について調査研究を続ける。2015～16年にはフィンランド、アールト大学芸術デザイン建築学部に着任。2015年ミラノ万博（イタリア）、2017年アスタナ万博（カザフスタン）では全パヴィリオンを踏査した。主な著書に『ポスト・モバイル社会——セカンド・オフラインの時代へ』（共著）世界思想社、『ケータイ社会論』（共編）有斐閣、『私の愛した地球博——愛知万博2204万人の物語』（共編）リベルタ出版などがある。

The Japan Society of
Information and Communication Research